

科目名		精神看護学	単位（時間）	5 単位 180時間
担当講師名		専任教員 他	DP	1・2・3・4
科目設定理由		現在社会は、高度な情報化や価値観の多様性により、人々の生活に便利さをもたらすと同時に精神的ストレスに満ちた状況である。精神障害は、誰にでも起こり得る身近な障害であり、生きづらさを抱えながら暮らしている人々が増えている。 精神看護学は、このような社会背景をふまえ、精神障害を抱えながら暮らしている人々の理解を深め、その人らしい生活を支援するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。また精神的課題を抱える現代の人々に対する支援や精神保健に関する普及啓発を担う看護師の役割を理解する科目として設定した。さらに精神看護学は、さまざまな対象を理解するための基盤となり、他の分野との関連も大きい科目として位置づけ、自己理解・他者理解を深めていくために設定した。 精神看護学概論は、精神看護の目的と対象を理解するため、精神の健康と精神障害の概念について学習する。また、精神保健福祉の歴史を概観し、精神に障害がある人の権利擁護及び法的根拠をふまえ、地域精神保健活動の現状と課題について理解し、多職種連携における看護師の役割と課題について学ぶために設定した。 精神看護援助論Ⅰは、主な精神障害の病態と検査、精神科治療を理解し、医療及び保護が必要な状況に対して安全と安楽を提供するために必要な看護について学ぶ。さらに疾患により生じる影響をふまえ、疾患を抱えながらもその人らしく生きることを支えるために必要な看護について学ぶために設定した。 精神看護援助論Ⅱは、精神に障害のある人が、その人らしく地域で暮らすために必要な退院に向けた支援の実際を学ぶ。また、対象との関係構築・発展のための技術とその人らしい生活を支援するための看護を学ぶために設定した。		
科目構成	科目名	精神看護学概論	精神看護援助論Ⅰ	精神看護援助論Ⅱ
	単位時間	1単位30時間	1 単位30時間	1単位30時間
	履修時期	31期生 1年次前期	31期生 1年次後期	31期生 1年次後期
	学習範囲	1 精神看護の目的と意義 2 精神の健康 3 精神看護の理論 4 ライフサイクルにおける危機管理 5 リエゾン精神看護 6 精神保健福祉の変遷と活動	1 主な精神障害・検査と主な治療 2 主な精神障害患者への看護 3 主な精神科の治療時の看護 4 精神科リスクマネジメント	1 退院支援と看護 2 対象との関係構築・発展の技術 3 その人らしい生活を支援する看護
	科目名	精神看護学実習		
	単位時間	2単位 90時間		
	実習のねらい	精神看護学実習では、精神に障害のある対象とのかかわりを通して、対象を理解・尊重し、思いに寄り添い、その人らしい生活を支えるためのさまざまな場における看護を学ぶ実習です。 その人らしい生活を支えるためには、対象がこれまでにどのような生きにくさ（難しさ）を体験しているのかをかかわりを通して理解することが必要です。対象の生育歴や発病に至った経緯、治療との関連や、さまざまな影響をふまえた現在の病状など多方面から対象の状態を捉えましょう。そのためにはこれまで歩んできた人生に関心を寄せると理解が深まるでしょう。精神疾患が日常生活に及ぼす影響と、対象のもつ健康的な側面にも目を向け、思いに寄り添いながらその人らしい生活を支える看護を学んでいきましょう。 再構成では、看護場面で何が起こっていたのかを振り返り、自己がどのように感じ、判断し、対象と関わったのかを整理しながら、対象の反応の意味を多面的に捉える。これにより対象理解が深まり、自己の感情や価値観、関わりの傾向に目を向けることで、看護者としての自己理解が深まります。 また、自己の関わりが対象に与える影響や相互作用について振り返ることを通して、看護者の関わりが治療的環境の一部となることへの理解が深まり、対象との関係構築や、その人らしい生活を支える看護実践につながります。 福祉サービス事業所実習では、精神に障害のある対象が地域で生活していく上での支援の在り方や、さまざまな場における精神看護について理解が深まるよう取り組みましょう。 実習を通して、対象とかかわる体験から多くの学びと成長を得ることでしょう。対象との出会いや別れ、その時・その場で行った看護の体験を大切に実習していきましょう。		